

ディ・トラベックス® 油剤

▲ 使用上の注意事項

処理前

1. 土壌中にガスを十分拡散させるため、耕起、整地はていねいに行ってください。
2. 生育中の作物には被害がありますので使用しないで下さい。
3. 花き類・観葉植物に使用する場合は、本剤はフザリウム菌による病害に対し効果があり、同じ病名であっても病原菌が異なるものもありますので注意して下さい。
4. 処理前にアルカリ性肥料、とくに石灰などを施用すると被害を起こすおそれがありますので、肥料はガス抜き後に施用して下さい。
5. 火気に近づけないで下さい。
6. 本剤の使用に当たっては圃場の立地条件、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
7. 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に被害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
8. ミツバチの巣箱周辺での使用はさけて下さい。

処理時

1. 地温が低いと効果が劣りますので、地温15℃以上の時になるべく使用して下さい。やむを得ず10℃以下で使用する場合には、ガス抜きまでの期間を長く(14日以上)し、ガス抜きをていねいにして下さい。
2. 本剤で処理後のくん蒸中の土壌表面は、ポリエチレン、ビニール、濡れむしろ等で被覆するか、または1㎡当り5～10ℓの水をまいて水封するとより効果的です。

▲ 安全使用上の注意事項

- 医薬用外劇物なので、取扱いには十分注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性がありますので眼に入らないように注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。
- 本剤は皮膚に対して刺激性がありますので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
- 本剤の投薬作業の際は吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク、不浸透性手袋、保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用して下さい。また、薬液が皮膚に付着したり、揮散したガスを吸い込んだり、薬液やガスが眼に入ったりしないよう注意して下さい。ガス抜き作業の際にも同様の防護マスク、保護眼鏡を着用して下さい。
- 作業に際してはガスに暴露しないよう風向き等をも十分に考慮して下さい。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをし、洗眼するとともに衣服を交換して下さい。また、作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 作業中およびくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意して下さい。

3. 本剤は使用直前に蓋をあけ、使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
4. 茶葉を収穫する茶樹成木には使用しないで下さい。また、茶樹幼木に使用する場合は、翌年に茶葉を収穫しないで下さい。

処理後

1. 作付は被害をさけるためガスが抜けたことを十分確かめてから行って下さい。地温が10℃以下の時、重粘土質で通気の悪い時、降雨など土壌水分が多い時はガスが抜けにくいので、ガス抜きをていねいに行い、注入してから植付けまでの期間をさらに約1週間長くして下さい。とくに茶のセンチュウ類防除の場合は低温時の処理となりますので、14日後にガス抜きを行い、さらに14日以上おいてから植え付けて下さい。
2. だいごんは本剤のガスに対する感受性が強く、岐根等の被害を生じやすいので、ガス抜きは完全に行うように十分注意して下さい。使用量が多い場合には2回以上ガス抜きをするなどし、できるだけ深く切り返しを行って下さい。粘土質の割合が低い砂質土(砂土、壤質砂土)では本剤のガスは抜けやすく、ガス抜き7日後の作付けが可能ですが、粘土質の割合が砂質土よりも高い砂壤土以上の土性においてはガス抜きからは種までの期間を長く(ガス抜きが複数回の場合は初回から14日以上)とるようにして下さい。
3. 本剤で処理した苗床、圃場に消毒されていない土壌を混入しないよう十分注意して下さい。
4. 使用後注入器などは錆を生じやすいので、灯油、石油等でよく洗って下さい。

- 住宅付近での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮し、とくに住宅に隣接する圃場では使用しないで下さい。
- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがありますので、河川、湖沼および海域等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。養殖池周辺での使用はさけて下さい。
- 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがありますので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 危険物第4類第2石油類に属しますので、火気には十分注意して下さい。
- 火気をさけ、種子、苗、肥料および他の農薬などと隔離し、直射日光が当たらない鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管して下さい。盗難、紛失の際は、警察に届け出て下さい。
- 居住場所または隣接する屋内には保管しないで下さい。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収して下さい。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めて下さい。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078
(9:00～12:00,13:00～17:00 土・日・祝日を除く)

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

土にやさしい 土壌くん蒸剤



ディ・トラベックス® 油剤



土壌病害、センチュウ類、
一年生雑草の防除に



臭化メチル代替剤として使用できます。

土壌くん蒸剤

ディ・トラベックス® 油剤

土壌中には様々な病原菌・センチュウ類が生息し作物の生育を阻害します。これらの病害虫は、土壌の隅々までいきわたる揮散力の強いガス状の薬剤でなくては、防除ができにくいといわれています。ディ・トラベックス油剤は、“揮散性が強く”“土壌中で速やかにガス化”して拡散し、有害なセンチュウ類、土壌病原菌に優れた効果をもたらすことが認められています。

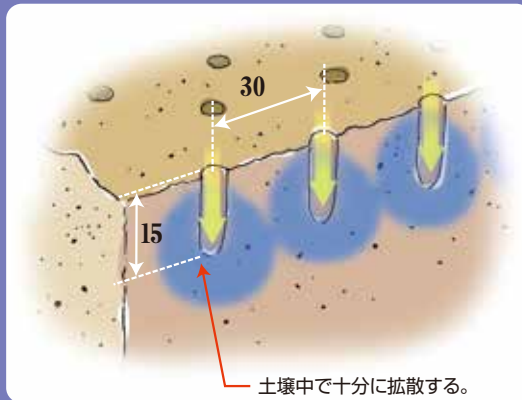
ここでは本剤の特性を生かした効果的で、より安全な使い方をご紹介します。

特長

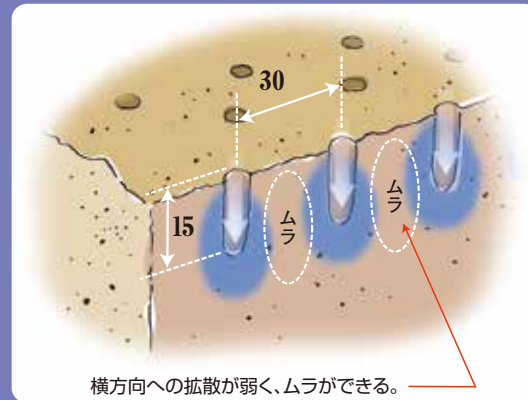
1. 土壌中の有害なセンチュウ類、土壌病原菌および一年生雑草に、防除効果を発揮します。
2. 注入後は土壌中で速やかにガス化し、土壌病害虫、雑草種子に効果的に働きます。
3. 人体や家畜に対して刺激臭が比較的少なく、使いやすい土壌くん蒸剤です。
4. 周辺作物に対して影響の少ない土壌くん蒸剤です。
5. 土壌消毒機で効率よく使用することができます。

土壌中でのガスの広がり方

ディ・トラベックス油剤



A 剤



【成分・性状】 ●品 名：ディ・トラベックス油剤
●登録番号：第13488号
●危険物表示：第二石油類 危険等級II 火気厳禁 キシレン

●毒 性：劇物
●有効成分：メチルイソチオシアネート…20.0%
1,3-ジクロロプロペン…40.0%

ディ・トラベックスの主な登録病害虫と雑草



ディ・トラベックスの効果

●一年生雑草発生抑制効果

無処理区と比較し、高い雑草抑制効果が見られました。

バイエルクロップサイエンス株式会社 高知県香南市現地圃場(2014年)



●品種：土佐1号(大しようが) ●処理(極寒期)：2/5、3/11(被覆除去) ●植付：4/1 ●調査：5/8(植付37日後)

●病害発生抑制効果と生育効果

無処理区に比べ黒腐菌核病の発生が抑えられ、ネギの生育も優れました。

群馬県農業技術センター(2012年)



●品種：夏扇4号 ●処理：3/15
●処理方法：40ℓ/10a、30cm幅・15cm深6連
灌注処理同時全面マルチ(0.03mmポリフィルム)
被覆、4/15マルチ除去・ガス抜き
●定植：5/3 ●調査及び方法：11/2に処理区
3ヶ所から1m幅でネギを掘り取り発病調査と生育
調査実施

上手な使い方

1 準備

【服装】

- ガス剤用の防護マスク
(吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク)
- 保護メガネ
(ガスの浸透しないゴーグル型)
- 保護手袋
(薬液のしみ込まないもの(不浸透性))
- 長袖・長ズボンの作業衣
- 長靴



【薬剤・器具の準備】

- 薬液の量を計算しておき、使い残さないようにしましょう。
- 薬液がきちんと注入されるか、器具を点検しておきましょう。
- 容器のふたは使用直前に空けましょう。
- 薬缶を土壤消毒機に取り付ける際にはガス剤用防護マスク、保護メガネ、保護手袋、長靴を必ず着用しましょう。



2 畑の整備

ていねいに耕起・整地し、土塊や前作の根などを除去し、平らにしておきましょう。



- 土壌中にガスを十分拡散させるため、耕起、整地はていねいに行ってください。
- 前作の根などは病原菌やセンチュウ類の巣になっているので除去しておきましょう。
- 処理前にアルカリ性肥料、特に石灰などを施用すると薬害を生ずるおそれがあるので、肥料はガス抜き後に施用してください。
- 生育中の作物には、薬害があるので使用しないでください。

3 注入

30cm間隔のチドリ状に、深さ12~15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧してください。
より安定した効果のために被覆をおすすめします。

※くん蒸期間:7~14日



注入前

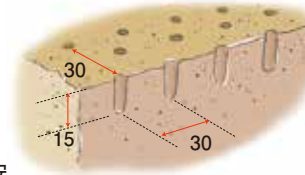
作業開始前のためし打ちをして薬液の注入量を確認してください。注入口の開度を調整した後で注入を行った方が、安全で無駄がありません。

注入後

直ちに地表面をビニールシートで被覆するか、5~10ℓ/m²の水をまいて水封します。被覆はガスの大気中への無駄な拡散を防ぐため、環境への悪影響をなくし、土壤消毒効果のアップにつながります。作業の際は、防護マスク、保護メガネ、保護手袋などの防護具が必要です。

注入の基本

- ・30cm間隔のチドリ状
- ・土中の深さ12cm~15cm
- ・日中の地温が15~20℃のとき
- ・土壌水分30%前後(適湿)が目安
- ※土壌が乾燥すぎ、または湿りすぎのときは使用しないでください。
- ・薬量は正確に計量



4 ガス抜き

処理した土壌に未消毒の土壌が混ざらないように注意しながら、ロータリーなどでていねいにガス抜きを行ってください。



- 処理7~14日後にロータリーなどで十分に土壌を耕起し、ガス抜きを行います。
- 土中のガスは徐々に抜けていきます。それは気象条件、土壌条件に左右されますが、通常約2週間で圃場から抜けます。

5 播種・定植

注入処後7~14日にガス抜きを行い、ガスが十分抜けたことを確認してから、播種・定植を行ってください。

⚠【注入の注意】

地温がおおよそ20℃以上の場合

- できるだけ地温の低い早朝に作業してください。
- 注入後、ガスが逃げないように地表面を速やかにポリエチレンシート、ビニールシートなどで被覆してください。

地温がおおよそ10℃以下の場合

- くん蒸処理後の土壌表面をポリエチレンシート、ビニールシートなどで2週間程度被覆し、地温を上げてください。
- 地温が10℃以下になると、薬剤はガス化しにくくなり、やむをえず10℃以下のときに使用する場合は、処理後ガス抜きまでの期間を14日以上空けてください。

土壌が乾燥または過湿状態の場合

- 乾燥していると土壌粒子にガスが吸着し、薬剤が有効に働きません。散水するか、雨を待つて適湿になったときに処理します。
- 過湿のときはガスの拡散が悪くなり、効果が上がりません。適湿になるのを待ち、処理します。



※処理・ガス抜きは適湿時に実施してください。土壌内でのガスの拡散がよくなります。

- 土壤病害虫や一年生雑草は圃場の周辺部から発生し圃場全体に広がることもあるので、端までていねいに注入してください。

⚠【ガス抜きの注意】

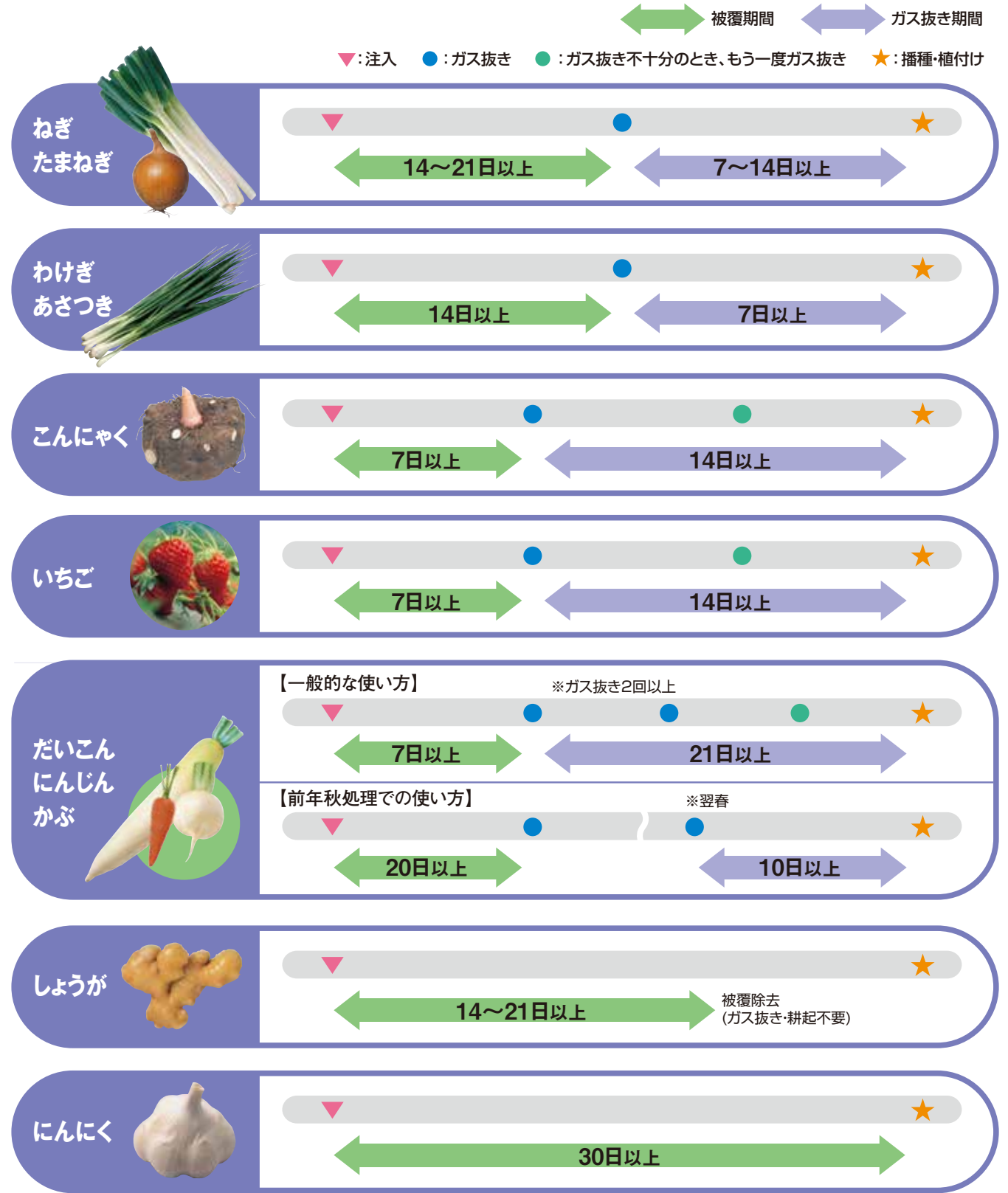
- 他剤に比べガスが抜けにくい性質をもつため、特にていねいにガス抜きを行ってください。
- 以下の場合はガス抜きを十分に行い、注入してから植付けまでの期間をさらに約1週間長くしましょう。

○地温が低いとき(10℃以下) ○重粘土質で通気性が悪い土壌 ○降雨などにより土壌水分の多いとき

- 未消毒の土壌が混ざらないようにしましょう。くん蒸後にくん蒸圃場外から未消毒の土が混入することがあります。汚れた農機具は洗浄した後使用してください。
- だいごんは本剤のガスに対する感受性が強く、岐根などの薬害を生じやすいので、ガス抜きは完全に行うよう十分注意し、特に使用薬量が多い場合には2回以上ガス抜きをし、できるだけ深く切り返しを行ってください。
- 茶のセンチュウ類防除は低温時の処理になるため、処理14日後にガス抜きを行い、さらに14日以上おいてから作付けてください。

作物別使用方法

より安定した高い効果を得るために、注入後の地表面をビニールシートで被覆することをおすすめします。



適用病害虫・雑草の範囲と使用方法

2014年10月現在の登録内容

作物名	適用病害虫	10アール 当り 使用量(ℓ)	適用雑草名	10アール 当り 使用量(ℓ)	適用害虫名	10アール 当り 使用量(ℓ)	使用時期	使用 回数	
しょうが	根茎腐敗病、立枯病	30~40	一年生雑草	30~40	センチュウ類	20~30	は種または植付の21日前まで	1回	
ごぼう	萎凋病						は種の30日前まで		
ねぎ、わけぎ、あさつき	萎凋病、白絹病、黒腐菌核病	40					は種または植付の14日前まで		
たまねぎ	乾腐病	30~40					植付の30日前まで		
ふき	半身萎凋病	30					は種または植付の21日前まで		
トマト	苗立枯病(リゾクトニア菌)	40					は種または植付の14日前まで(砂質土)		
ミニトマト	萎凋病、根腐萎凋病	30~40					は種または植付の21日前まで		
だいこん	根こぶ病、パーティシリウム黒点病	30					は種または植付の30日前まで		
	萎黄病	30~40					は種または植付の14日前まで(砂質土)		
	根こぶ病、パーティシリウム黒点病	30					は種または植付の21日前まで		
すいか	つる割病	30~40					は種または植付の30日前まで		
メロン	萎凋病	40					は種の30日前まで		
ほうれんそう	苗立枯病(ピシウム菌)						は種の21日前まで		
かぶ	パーティシリウム萎凋病	30					は種または植付の21日前まで		
	根こぶ病、パーティシリウム黒点病	30~40					は種または植付の30日前まで		
らっきょう	黒腐菌核病、根腐病、乾腐病	30					は種または植付の21日前まで		
にんにく	乾腐病、紅色根腐病	40					は種または植付の30日前まで		
キャベツ	パーティシリウム萎凋病	30~40					**		は種または植付の21日前まで
はくさい	萎黄病、根こぶ病	30							
いちご	疫病、萎凋病	50					センチュウ類		30~40
きく	半身萎凋病、萎凋病								
茶	白紋羽病	30~40	30	30	植付の21日前まで				
きゅうり	苗根腐病								
にんじん	つる割病	30~40	30	30~40	は種または植付の21日前まで				
なす	萎凋病、しみ腐病、黒しみ病								
こんにゃく	萎凋病、半枯病、半身萎凋病	30	30~40	20~30	は種または植付の21日前まで				
やまのいも	乾腐病、根腐病、白絹病								
カーネーション	褐色腐敗病	30~40	30	イシユクセンチュウ	30	植付の21日前まで			
つつじ類	萎凋病、萎凋細菌病								
たばこ	黒根病	20~30	30~40	センチュウ類	20~30	は種または植付の21日前まで			
レタス	立枯病								
非結レタス	根腐病	30	30~40	センチュウ類	20~30	は種または植付の21日前まで			
花き類・観葉植物(カーネーション、きくを除く)	パーティシリウム萎凋病								
	萎凋病※、萎黄病※、球根腐敗病※、苗立枯病※、尻腐病※(※フザリウム菌)	30~40	30	30	30	は種または植付の21日前まで			
	腐敗病、乾腐病、萎縮病								
	半身萎凋病	30							

●使用方法:圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12~15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。ほうれんそうの場合は、所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。薬剤処理7~14日後にガス抜き作業を行う。ただし、だいこんのは種または植付の14日前までに砂質土において使用する場合は、7日後に行う。

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。
**きくのセンチュウ類はハガレセンチュウを除く